

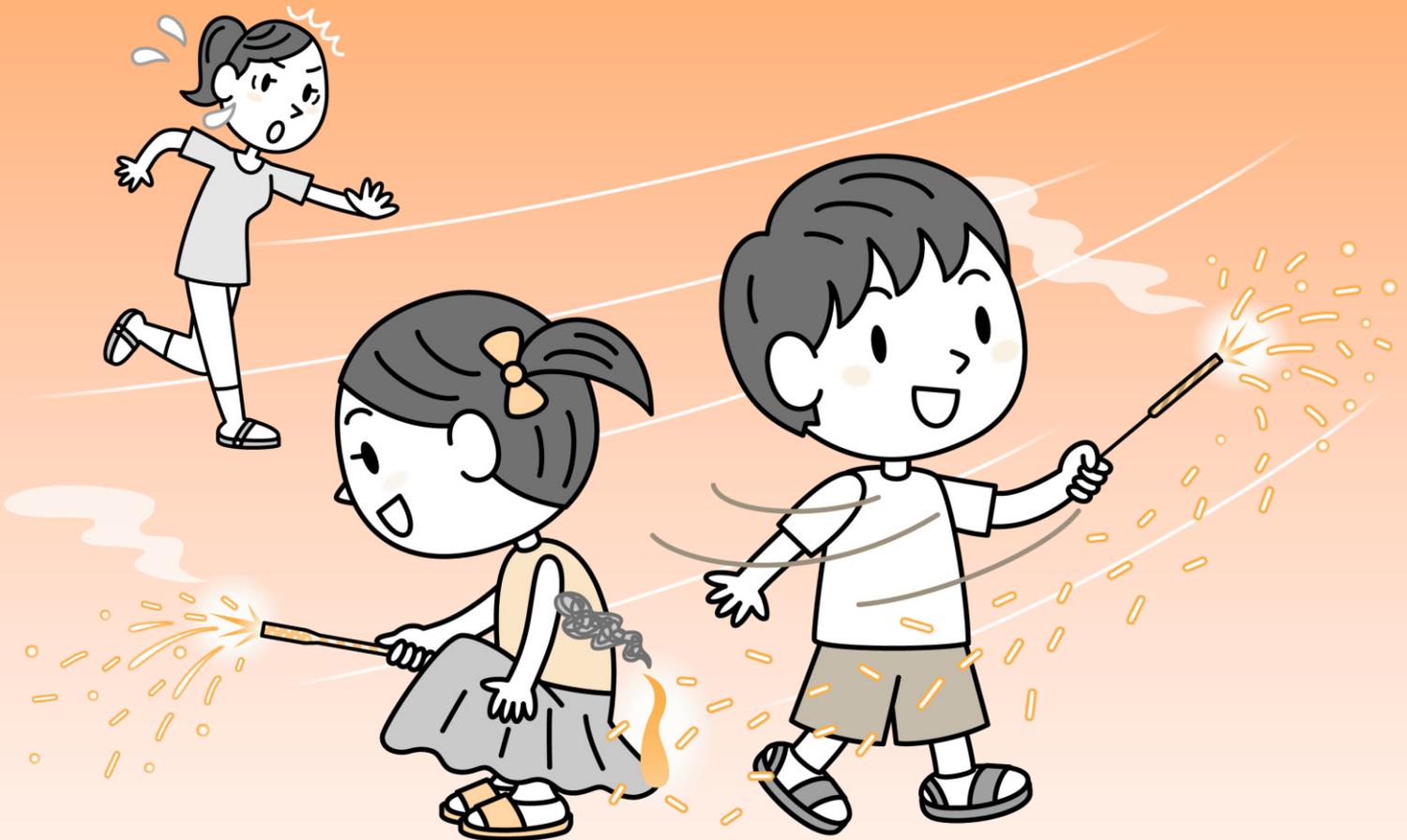
くらしの危険

Number

380

花火による 子どものやけどに注意しましょう

—3歳以下の子どもの事故が多く発生、着衣に着火した事例も—



夏の風物詩の一つである**花火**ですが、子どもが花火で遊んでいる際に**やけど**を負ったという事故情報が2018年度から2022年度までの5年間で、**60件**寄せられています。

事故に遭った被害者の半数以上は**1～3歳児**で、中には**着衣への着火**を伴っていた事例もみられました。

3歳以下の子どもと花火を行う際には、子どもに花火を持たせることは避け、**服装**に注意しましょう。また、**風が強い場合**は花火で遊ばないようにしましょう。



独立行政法人
国民生活センター

National Consumer Affairs Center of Japan

🔥 こんな事故が起きています

【事例 1】

公園で手持ち花火を実施していた。保護者が一瞬目を離している際に左足の靴に火の粉がうつり、燃えていた。左足の指にやぶけた^{すいほう}水泡と小水泡がみられた。Ⅱ度の熱傷。

(受診年月：2022年8月、3歳2か月、女兒)

【事例 2】

花火を振り回し、直後に風で火花がスカートに飛んで着火し、燃え上がった。保護者がはたいても火が消えず服を脱がせた。右太ももにⅠ度～Ⅱ度の熱傷。水泡は破れていた。

(受診年月：2021年9月、6歳8か月、女兒)

🔍 危険な状況を想定したテストを行いました

風の吹く中で花火を行ったところ・・・

花火の燃えカスが身体に当たったり、衣服に燃え移ったりすることがありました。



⚠️ 消費者へのアドバイス

- ✓ 3歳以下の子どもに花火を持たせることは避けましょう。
- ✓ 肌の露出が多い服装や履物、裾の広がった服装で花火をさせる際には注意が必要です。
- ✓ 風が強い場合は花火で遊ばせないようにしましょう。
- ✓ 消火用の水を用意し、着衣に着火した場合の対処法を覚えておきましょう。
- ✓ 花火が消えたらすぐに水につけましょう。

